

⑧行仁地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
行仁地区	【第1回】平成27年10月24日 (土) 9:30~12:10 【第2回】平成27年11月1日 (土) 9:30~12:10	行仁小学校 校体育館	「みんなで考えよう！わくわくする行仁小学校」～ 未来の行仁小学校を創る ワークショップ～	60名

老朽化した行仁小学校の建替えに向け、地区にとって、また子どもや大人にとって、学校をどのように利用すれば魅力的な施設にできるのかを地区全体で検討する必要があることから、上記テーマを採用した。

行仁小学校の教室や校庭、プールといった施設の新しい使い方を考え、参加者みんなで「小学校」という地区の公共施設の使い方や地域との関わり方について、これまでにないアイデアを考えました。

児童・保護者・地域の方・学校の先生など、全体で約60名の方が参加し、多くのアイデアが出されるとともに、参加者同士の交流も生まれ、楽しく意義のあるワークショップとなった。

<第1回内容>

1. 議事

(1) 開会 (企画調整課 宮崎主幹)

(2) 主催挨拶 (企画調整課 佐藤課長)

- ・児童や保護者の皆さん、地区住民の方々、先生方と一緒に行仁小学校の未来を考えていこうというもの。このWSで沢山のアイデアが生まれ、そのアイデアを参考に本日参加の改築推進委員会の皆様とともに検討し、地域の学校として行仁小学校を創っていきたい。



(3) 参加グループ紹介、メインファシリテーター・スタッフ紹介 (企画調整課 宮崎主幹)

(4) 全体説明

- ① 市の公共施設の現状について (企画調整課 宮崎主幹)
- ② 行仁小学校改築に向けた地区アンケート結果について (教育総務課 長谷川副主幹)
- ③ ワークショップの進め方 (前橋工科大学工学部 堤准教授)
 - ・基本的な3つのルールと5つのポイントについて説明

(5) ワークショップ (WS) (全体進行：前橋工科大学工学部 堤准教授)

計9グループに分かれ、グループワークを展開。先生・職員グループ以外の7グループに女性FM会4人+市職員4人が入り、進行支援を実施。

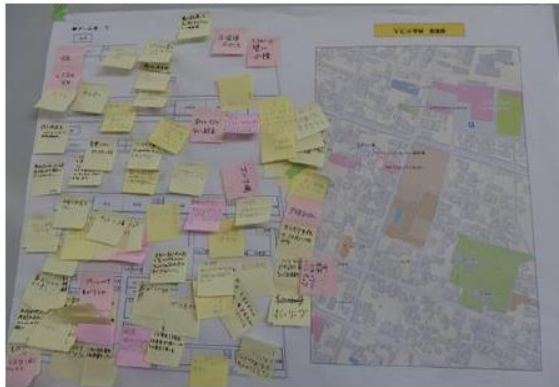
<ワークショップの手順>

- ① 各グループ内で、教室や体育館など箇所別に、新しい使い方をなるべく多く提案する。
- ② 選定した提案(箇所)をグループで練り上げる。
- ③ 各グループ発表の後、各参加者が、一番いいと思ったグループ(自グループ以外)への投票を行う。

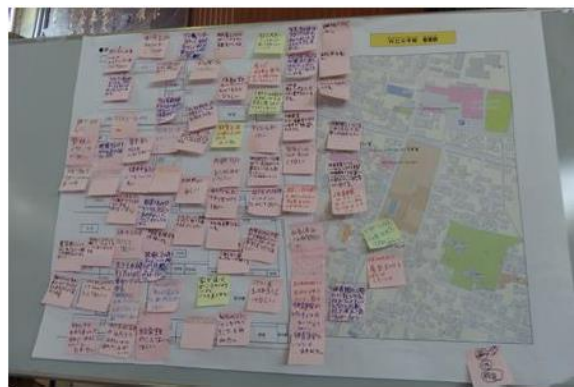
WSの成果① 各グループで新しい使い方をなるべく多く提案

- 教室や体育館など箇所別で新しい使い方をグループ内で話し合い、なるべく多くの提案を実施
- 各階平面図、施設配置図を拡大した模造紙の対象箇所に提案を貼付

<Aグループ>



<Bグループ>



<Cグループ>



<Dグループ>



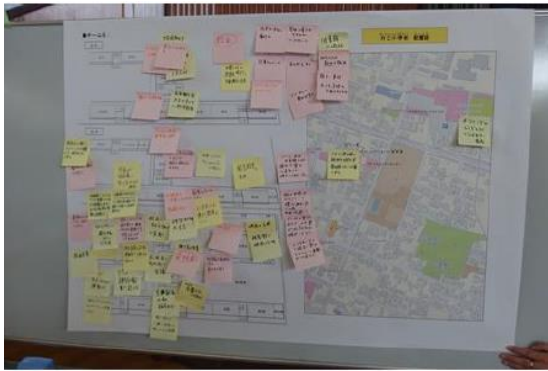
<Eグループ>



<Fグループ>



<Gグループ>



<Hグループ>



<Iグループ>



WSの成果② 提案された新しい使い方

- 全体進行役の堤氏より、グループ内の意向やバランスも考慮し、各グループのメインテーマ（箇所）を1つ指定、公表
- 指定箇所について、「そこで何をするのか」「どんな設備・機能が必要か」などグループ内でアイデア出し

<Aグループ 対象：昇降口>

- ・ 会員カードで出入り
- ・ 忘れ物屋
- ・ 文具店

<Bグループ 対象：体育館>

- ・ 作った絵や作品をかざる
- ・ 休みの日はみんなで使える公共の施設にする

<Cグループ 対象：理科室>

- ・ 壁を水槽にして魚を入れる
- ・ 出入りを自由にして授業以外でも入って楽しめるようにする
- ・ 地下室を作り、本が読めるようにする

<Dグループ 対象：地下室>

- ・ 地下室を作り、勉強部屋&避難所として使う
- ・ プラネタリウムやミニ動物園・水族館をつくる
- ・ ベッド、赤ちゃん用ベッド、ふとんやストーブなどを完備

<Eグループ 対象：プール>

- ・ 水難訓練を行う
- ・ 一般開放して大人も利用できるようにする
- ・ 近くの民間プールを活用する

<Fグループ 対象：教室>

- ・ 不登校の子どもが来れる場所をつくる
- ・ 給食を地域住民も一緒に食べられるようにする
- ・ いたずら書きができたり、大きな音を出せるようにする

- ・ 地区の人が集まれる場所にする
- ・ 歴史資料を子どもと大人が共有できるようにする
- ・ カフェ機能やマンガによって子どもが来やすい環境にする

- ・ カフェやアンテナショップを併設した地域の交流の場に
- ・ 民間企業に貸出し、新レシピ開発や職業体験イベントなどを展開
- ・ 太陽光を熱源とし、エコ&災害時にも活躍

- ・ 地域菜園や地域樹林をつくる
- ・ ビオトープで自然観察の授業
- ・ 「行仁の小道」をつくり、出入りを自由に



会津若松市HPより

WSの成果③ 各グループの成果発表⇒いいと思うグループへの投票

- 成果②を全体発表
- 投票（結果 1位：Aグループ、2位：Iグループ）



(4) 全体講評（前橋工科大学 堤准教授）

皆さんから、様々な提案があり、各グループで議論し、素晴らしい発表をいただいた。学校の教室や体育館など、今までにない新しい使い方が見出された。

今回は、様々な世代や地域での役割のなか、それぞれの考え方や発想の違いを共有できたことが、最大の成果であると思う。

「こうだからできない」：ではなく、「こうすればできる」という視点で、次回のワークショップも望んでいただきたい。

2. 事務連絡（企画調査課 宮崎主幹）
3. 閉会（企画調査課 佐藤課長、宮崎主幹）

<第2回内容>

1. 議事

(1) 開会（企画調整課 宮崎主幹）

(2) 主催挨拶（企画調整課 佐藤課長）

- ・児童や保護者の皆さん、地区住民の方々、先生方と一緒に仁仁小学校の未来を考えていこうというもの。第1回WSでは、仁仁小学校の施設（教室）の新しい使い方についてたくさんのアイデアが出された。今回は、そのアイデアを実現するための方策や、それが自分たち以外の人にとってどんないい「いいこと」があるかを深める回となる。



(3) 参加グループ紹介、メインファシリテーター・スタッフ紹介（企画調整課 宮崎主幹）

(4) 全体説明

- ① 前回のふりかえり（企画調整課 宮崎主幹）
- ② 今回のワークショップの流れ（(株)日本経済研究所 小原）
- ③ ワークショップの進め方（(株)日本経済研究所 小原）
 - ・基本的な3つのルールと今回のポイントについて説明
 - ・「アイデアが実現したら自分たち以外の人にどのような「いいこと」があるかを考えることが今回のポイント。誰に、どのようないいことがあるかを意識する。

(5) ワークショップ（WS）（全体進行：(株)日本経済研究所 小原）

計5グループに分かれ、グループワークを展開。Eグループ（改築推進委員会、地区大人）に(株)日本経済研究所職員が入り、進行支援を実施。

<ワークショップの手順>

- ① 前回のふりかえり、フィールドワークを行う。
- ② アイデアの実現策と地域にとっての「いいこと」をグループ内で議論する。
- ③ 各グループ発表の後、各参加者が、一番いいと思ったグループ（自グループ以外）への投票を行う。

WSの成果① 前回のふりかえり、フィールドワーク

- 世代、団体別の各グループで第1回のワークショップの成果のふりかえりを実施
- フィールドワークとして、第1回ワークショップで選んだ、教室、施設（図書室、理科室、活動室、給食室（外側のみ）、昇降口、プール、体育館）を実際に見学

～会場の様子～

ふりかえり



～フィールドワークの様子～

移動中



図書室



理科室



活動室



給食室



昇降口



プール



体育館 (WS会場)

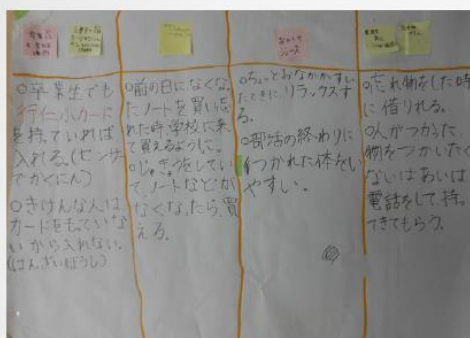


WSの成果② アイディアの実現策と地域にとっての「いいこと」をグループ内で

- 前回のワークショップで提案された各施設の新しい使い方のアイディアを、どうすれば実現できるかを議論
- アイディアが実現したら自分たち以外の人にどのような「いいこと」があるかを議論
- 第1回ワークショップでの11の対象施設について、5グループで議論。

<Aグループ 対象：昇降口>

第1回の成果



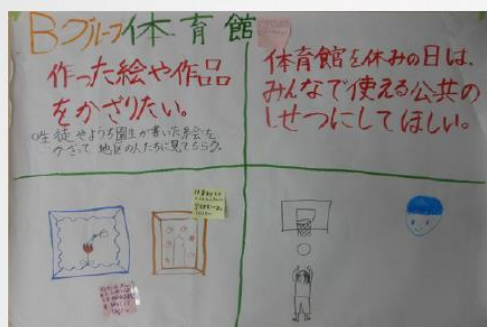
第2回の成果



- ・忘れ物屋をつくり、忘れ物をしても借りられるようにする。
- ・忘れ物屋には電話があり、親に持ってきてもらうこともできる。
- ・文房具やお菓子を売っているお店もあり文房具を買ったりお菓子で疲れをいやすことができる。
- ・お店は地域の人でも利用できるもので、地域活性化につながる！

<Bグループ 対象：体育館>

第1回の成果



第2回の成果



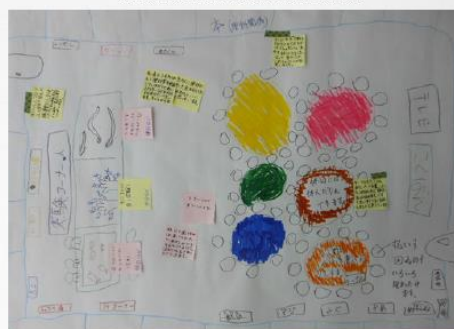
- ・幼稚園児や小学生などの絵を展示し、お年寄りやカップルなど誰でも観ることができる。
- ・祝日はライブハウスとして使い、校長先生がきゃりーぱみゅぱみゅやお笑い芸人など芸能人を呼んでくれる。
- ・自由に汚せるスペースがあり、絵を描いたり作品を作ったりできる。
- ・地域の人でも体操をしたり、スポーツをしたりと自由に利用できる。

<Cグループ 対象：理科室>

第1回の成果



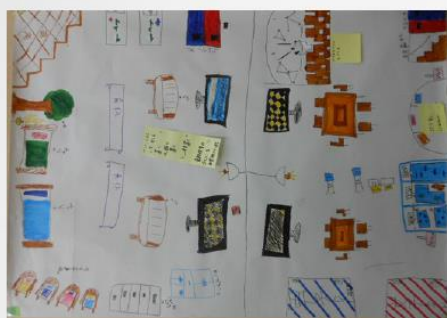
第2回の成果



- ・ 壁が水槽になっており、イスもくるくる回るので水族館のように楽しめる。
- ・ サメや電気ウナギ、ドクターフィッシュなどの水槽があり、ふれあいもできる。
- ・ 休日は大人もいっしょにエサやりや実験が楽しめる。
- ・ 理科の楽しさ、魚の楽しさを大人も子どももみんな学べることができる！

<Dグループ 対象：地下室>

第1回の成果




第2回の成果




- ・ 避難所として使う。
- ・ すべり台、登り棒、スロープといった様々な入り口から入れる。
- ・ 点字ブロックなどもあり、ユニバーサルデザインになっている。
- ・ 非常食、赤ちゃん用ベッド、ふとん、テレビやラジオなどがある。
- ・ 暖房付きの床でプラネタリウムが楽しめるので、平常時も住民の交流の場として使える。

<Eグループ 対象：プール>

第1回の成果




第2回の成果



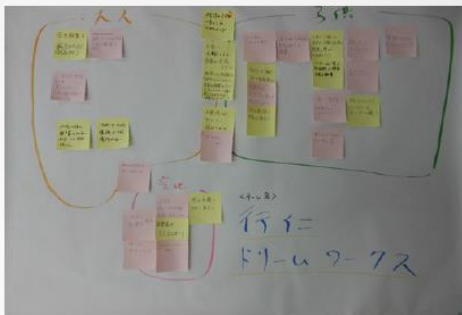
- ・ プールは民間のスイミングスクールを利用する。
- ・ プールの水は火災の際に使用しても10分程度で尽きてしまうため、防災面でも不要と判断した。
- ・ インストラクターに教えてもらうことで 泳力が向上する。
- ・ 民間プールは通年使えるため、授業もやりやすくなる。
- ・ プールの分の敷地を、他の教室などの敷地として有効活用する。

<Fグループ 対象：教室>

第1回の成果



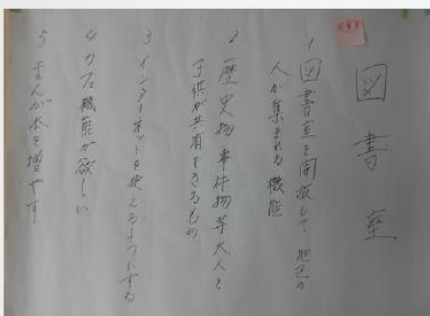
第2回の成果



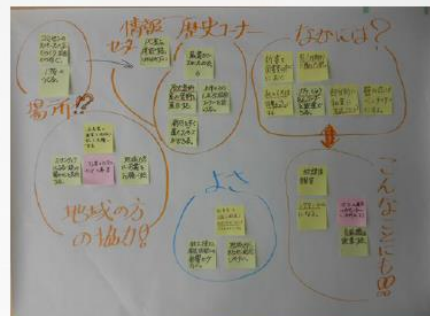
- ・ 自由な教室の使い方として検討した。
- ・ イスや机が自由に動かせる、壁がホワイトボードになっている、など自由度を高くし、様々な使い方ができるようにする。
- ・ 不登校の児童でも通える居場所をつくる。
- ・ 授業で使わない時間を地域住民に有料で貸出すなどし、地区の住民の交流を促すことで地域が活性化していく教室になる。

<Gグループ 対象：図書室>

第1回の成果




第2回の成果



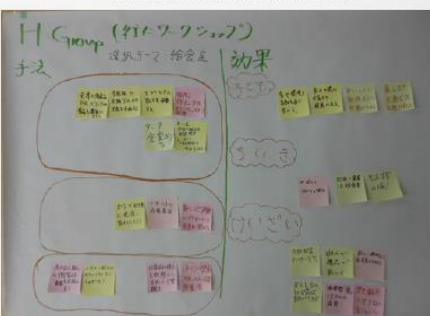
- ・地域の情報センターとして位置付ける。(PC設置、郷土資料の展示など)
- ・窓向きに机を配置し集中して勉強できる環境を作る。
- ・ソファやこたつ、飲料販売など、様々な年代の方がくつろげる空間を作る。
- ・シアタールームがあり、地域の方とワールドカップ観戦などを行う。

<Hグループ 対象：給食室>

第1回の成果



第2回の成果



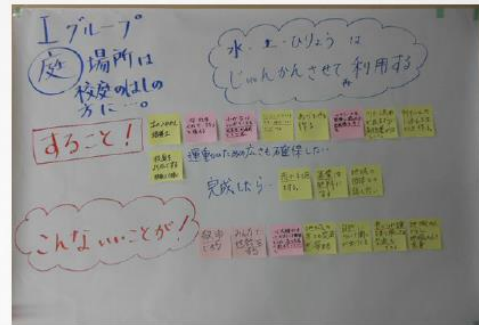
- ・フロアを広くし、休日は大人もレストランとして利用できるようにする。
- ・セキュリティ対策として休日専用の出入口をつくる。
- ・児童がレシピを考案する、大人と食事を楽しむなどを通じて食育を推進する。

<Iグループ 対象：校庭>

第1回の成果



第2回の成果



- ・土を入換えたり、実のなる木を植える。
- ・夜も入れるよう、ライトアップする。
- ・ビオトープをつくり、絶滅危惧種を育成する。
- ・水や土を循環させ、たい肥などを地域の人といっしょにつくり、手入れをすることで児童と住民との交流や学びが生まれる。

WSの成果③ 各グループの成果発表⇒いいと思うグループの投票

- 成果②を全体発表
- 投票（1位：A・Bグループ、2位：Iグループ、特別賞D・Eグループ）



(4) 全体講評（日本経済研究所 小原）

発表の共通点として、ある施設が何かと何かを兼ねているという特徴があった。例えば、理科室が水族館を兼ねている、地下室が非常用シェルターとプラネタリウムを兼ねているなどである。民間のプールを活用するなど、なくてもよいものは思い切ってなくすという意見もあった。

何よりも、全てのグループにおいて、「楽しい施設」ということが意識されていること、誰のためのという点においては、特定の誰かではなくみんなが使える小学校ということが共通していた。

いずれも素晴らしいアイデアであり、この成果を、今後の検討に活かしていただきたい。

(5) 全体まとめ（企画調整課 佐藤課長）

行仁小学校の改築については、今後改築推進委員会と市で話し合いを進めていく。今回のワークショップでは、みんなのため、地域のためにどうするかという議論がなされさまざまなアイデアが出されたが、地域といっても、住民、事業者などさまざまな立場の人がいる。今後は、地域の方々が、何ができるかという視点での検討も重要になってくると考える。

2. 閉会（企画調査課 佐藤課長、宮崎主幹）

～グループ発表～

A・Bグループ～児童～

選定箇所：昇降口、体育館



C・Dグループ～児童～

選定箇所：理科室、地下室



Eグループ～大人（改築推進委員会、保護者）～

選定箇所：プール



F・Hグループ～大人（市職員、地区一般）～

選定箇所：教室、給食室



G・Iグループ～大人（教職員）～

選定箇所：図書室、庭



⑨北会津地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
北会津地区	平成 27 年 11 月 16 日 (月) 18:30~20:30	北会津公民館	「農村・農業の活性化～より暮らしやすい地域を目指して～」	17 名

北会津地区は、豊かな自然に囲まれ、農業やフルーツ栽培などが盛んで、観光農業に力を入れている地区であることから、上記テーマを採用した。当日は、ワークショップの経験が初めての参加者が多かったが、次第に議論が活発化し、結果的に多くの意見が出た。

1. 議事

(1) 開会 (企画調整課 佐藤課長)

(2) 配布資料説明

④ 新総合計画について (企画調整課 佐藤課長)

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

⑤ 会津若松市・地区別の概況、「農村・農業の活性化～より暮らしやすい地域を目指して」について解説 (日本経済研究所 小原)

(3) ワークショップ (WS) (進行役: 日本経済研究所 小原)



<ワークショップの手順>

- ① 「農業が盛んなまち・農村としての北会津」の視点から、わがまち (北会津地区) の良い点・自慢できる点について、各自意見を出す。
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワードを設定する。
- ③ キーワードを踏まえて、北会津地区における現在の課題と活性化策や取組み方策について協議する。



会津若松市観光ナビ HP より

WS の成果① 設定されたキーワード

- 「わがまち（北会津地区）の良い点・自慢できる点」に関するキーワードを設定
＜自然に関するキーワード＞

景色がいい、自然が豊か、水が豊富

- ＜農業、農産品に関するキーワード＞

農産物の種類が豊富、観光農業が盛ん、地産地消、農業を営みやすい土地柄、農地が整備されている、若い農業後継者が多い

- ＜住民に関するキーワード＞

人間関係・交流が密、地域コミュニティが盛ん、子育て環境が良い、世代を問わない人の良さ、地域内の交流

- ＜その他＞

道路がきれい（地形、除雪）、独自の教育

WS の成果② 課題

- キーワードを踏まえた、北会津地区の現在の課題

- ・ 商業施設、娯楽施設がない
- ・ 農産物のPRが下手である
- ・ 都市計画法の制約がある
- ・ 農産物の売り先が見つけれない
- ・ 農産物の糖度を測ることが出来ない
- ・ 消費地にアンテナショップがない
- ・ 公共交通機関の使い方がわからない
- ・ 大型の公園がない

● キーワードを踏まえて、北会津地区における現在の課題と活性化策や取組み方策について協議

- ・ 現在の歩合制であると農家の方の手取りが少なくなるため、定額制の集荷にする
- ・ 大型商業施設と地元PRセンターを併設し、地元の野菜を置いてもらう
- ・ 売り先を見つけるための、マッチングサイトや施設を作る（意見交換の場所）
- ・ 高齢者向けの宅配システムを作る
- ・ 地域のつながりを活かした高齢者や子どもの見守りを行う
- ・ 農業に関する教育文化教育を進める
- ・ 修学旅行や農業体験を増やす
- ・ 情報発信力を高めて海外の方を呼び込む
- ・ 地産地消の地域の拡大
- ・ 農地の維持のために、農業をしたい人を呼び込む（Iターンの受入れ体制構築）
- ・ 農業に携わる人は高齢化しており、情報機器の扱いが苦手であるので、若い人を巻き込んでSNSなどを活用した情報発信を実施する など

(4) 全体講評（日本経済研究所 小原）

WSに初めて取組む方も多かったが、沢山の意見が挙げられていた。今回のWSのお題は、初めての方には難しいものであったが、具体策や担い手まで十分に検討されていた。

最初はなかなか良いところを見つけることができなかつた方も、人の意見を聞いて、良いところを認識できるようになっていた。

どのグループにも共通して言える、北会津地域の良い点としては、「農産物が豊富」という点であったが、「流通」に対する課題が問題として挙げられていた。また、「交流」というキーワードも各グループで挙げられていた。交流する先としては、消費者のほか、海外、修学旅行生、子どもなど様々な対象が挙げられていた。

さらに、「発信」というキーワードも各グループで挙げられていた。マスコミで大々的に取り上げてもらうという意見もあったが、まずは地域の若者に役割を担ってもらう等、足元からの取組みが重要ではないか。

行政・農協・農家との「連携」が重要という意見もあった。これまでは、地域が豊かであるが故に、様々な主体が様々なことに、個別に取組んできたようであるが、これからは各主体が協力・連携して取組むことでさらに地域が活性化されると思われる。

今回のWSを、自分たちの地域の良いところを認識し、地域の豊かな暮らしに結び付けるための行動のきっかけづくりにしてもらいたい。

2. 事務連絡（佐藤課長）

3. 閉会（佐藤課長）

わがまち（北会津地区）の良い点・自慢できる点



取組体制、方策



⑩会津若松 IC 地区

地区	日時	場所	テーマ	参加人数
会津若松 IC 地区	平成 27 年 11 月 20 日（金） 18：30～20:30	北公民館	「地区における少子化対策～子育て環境の向上を目指して」	16 名

会津若松 IC 地区においては、地区内の少子化及びそれによる地域の活力や一体感の低下が、以前より課題と認識されていたことから、上記テーマを採用した。

参加人数は 16 名、全体説明後、2 グループに分かれて作業をした。2 グループのうち、1 グループに市職員及び日本経済研究所職員が入り、もう 1 グループに日本経済研究所職員が入り、進行支援を実施した。

1. 議事

(1) 開会（企画調整課 邊見副主幹）

(2) 配布資料説明

(ア) 新総合計画について（企画調整課 邊見副主幹）

・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。

(イ) 会津若松市・地区別の概況について解説

（日本経済研究所 小原）

(3) ワークショップ（WS）（進行役：日本経済研究所 小原）



<ワークショップの手順>

- ① 「「子育て環境面」の視点からみた、わがまち（会津若松 IC 地区）の課題」について、各自意見を出す。
- ② 意見を類似する内容ごとにグループ分けし、グループごとにキーワードを設定する。
- ③ キーワードを踏まえた活性化策について 1) 具体的な方策、2) 実施主体 について議論。



会津若松市 HP より

WSの成果① 設定されたキーワード

- 「子育て環境面」からみたわがまちの「課題」設定

<Aグループ>

子どもの居場所がない、きまりが多い、地区の催事・イベント、住環境、都会へのあこがれ、親の問題、女性の視点

<Bグループ>

事業所がない、公共施設がない、住宅がない、道路整備、夜が暗い、子どもの遊び場がない、幼稚園がない、同居しない、子どもに必要な施設が遠い、若者の流出、交流の場がない

WSの成果② キーワードを踏まえた課題解決の方策

<Aグループ>

- ・ 子供会などの合同開催、他の団体交流を活用（消防団など）、公民館の活用、体育館を使う、放課後児童クラブの活用、オープンスペースの活用、学校の規制が多すぎる。
- ・ 祭りの合同開催、若者をターゲットにしたイベントの開催、館長と仲良く交流する、雪国を活かしたイベント交流
- ・ 商業施設がほしい、交通の便を良好にしてほしい、歩いて楽しませる町づくり、歩道の整備

<Bグループ>

- ・ 市の協力
- ・ 小学校校庭を公園の代替
- ・ 小学校の中に幼稚園をつくる（空き教室の利用）。
- ・ 6次化、農業を活かした地域活性化、農業を活かした交流、元気なお年寄りに講師になってもらう。

<Aグループ>

- ・ 小中学生がいない地区があり、若い世代が減少し、若者が流出しているという現状がある。
- ・ 子供の居場所が少ないという課題がある。これに対しては、違う地区の子供会と合同開催するとか、消防団などの団体を活用するという方策がある。
- ・ 都会へのあこがれ、親の問題については雇用の創造、男女の出会いの場をつくる。
- ・ 住環境については、商業施設がほしい、交通の便を良好にするなどの意見が出た。
- ・ 地区の催事、イベントは祭りの合同開催や若者をターゲットにしたイベントの開催などの意見が出た。例えば地区のイベントとして運動会があるが、体育連盟と

<Bグループ>

- ・ 交流の場が少ない、幼稚園や保育園などの子供を預けるところがない、交通の便が不便であり車がないと生活できない、若者が東京に出ていってしまう、病院、塾、学校などの必要な施設が遠いなどの課題が出された。
- ・ 市街化調整区域の問題や、道路整備などについては、市の協力が必要である。
- ・ 幼稚園、保育園については、小学校の空き教室を利用して幼稚園をやってみてはどうかとの意見が出た。
- ・ 農業地区であることを活かすことを考えた。元気なお年寄りを活用して、6次化や農業体験などの取り組みをおこなうことで、地域が活性化し、若者の流出をふせぎ、少子化対策になるのではとの意見があった。

(4) 全体講評（日本経済研究所 小原）

少子化というとハード面の問題となってしまうがちなため、今回は、子育て環境面の充実という観点から、地域で取り組み可能なことを考えていただいた。

Bグループからは、農業を活かした交流・活性化のアイデアがあり、担い手として元気なお年寄りという意見があった。Aグループからは、学校と体育連盟が連携して運動会を開催するというアイデアがあった。今ある組織を活かして連携するという視点が素晴らしい。Bグループからは、空き教室を幼稚園にしてはどうかとのアイデアが出た。公共施設の有効活用の観点からも、実現すれば全国の先進的な事例ともなりうる非常に面白い意見だと感じた。

課題というと、何かが「ない」と考えがちであるが、地域にあるものを活かして、色々な人の力を借り、楽しみながら取り組んでいくことで、あの地区は楽しそうだ、盛り上がっているなということになり、それがひいては少子化問題の解決にもつながっていくものと思う。非常に限られた時間の中で素晴らしい意見が多く出された。是非これからも引き続き、地域で議論を進めてほしいと思う。

2. 事務連絡（邊見副主幹）

3. 閉会（邊見副主幹）

わがまち（一箕地区）の良い点・特徴的な点⇒キャッチフレーズ⇒取組みについて
 <Aグループ>課題⇒方策



